

枚方市立川越小学校



「子どもが主役」の川越小

【子どもと共に育ち合う学校像】

「みんなが安心 みんなで創る

一人一人が輝く ごきげんに生きられる学校」

10
月号

枚方市立川越小学校通信
令和7年10月1日
校長 吉川 茂樹
TEL 050-7102-9120

～非認知能力と枚方市の5Cで育てる子どもたち～

近年、教育の現場で「非認知能力」という言葉が注目されています。

これは、テストの点数などで表しやすい「認知能力」とは異なり、数値化しにくい力のことを指します。たとえば、**最後までやり抜く力、人と協力する力、自分の気持ちをコントロールする力、相手を思いやる心、そして「やってみたい」という好奇心**などが含まれます。

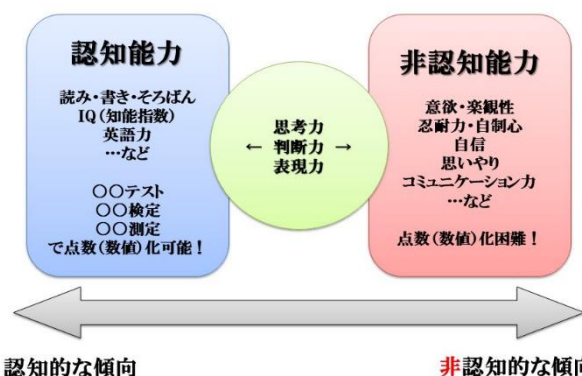
枚方市では、このような非認知能力を育成するために、「**5C**（**チャレンジ**／Challenge・**コミュニケーション**／Communication・**コラボレーション**／Collaboration・**クリエイティビティ**／Creativity・**クリティカルシンキング**／Critical Thinking）」という視点を教育活動に取り入れています。枚方市教育委員会では、「未来を生きる子どもたちにとって必要な資質・能力を育む」ために、この5つのCを頭文字としてまとめ、それぞれが非認知能力に深く関わるものと位置づけています。

～ご家庭との連携で育てる5C～

ご家庭でも、5Cを視野に入れたお子さまへの声かけや日常の関わりを取り入れていくことで、非認知能力を育てる大きな助けになります。以下のような工夫はいかがでしょうか。

- ◆**チャレンジ**を育てる声かけ：たとえ途中でつまづいても、「ここまでがんばったね」「次どうしてみたらいいかな」と励ます。
- ◆**コミュニケーション**を伸ばす機会を作る：家での会話、友だちやきょうだいとの話し合い、ご近所や地域の方と話す場面を大切にする。
- ◆**コラボレーション**を体験させる：家庭での役割（お手伝いなど）を任せたり、きょうだいや友だちと協力して何かを成し遂

テストで点数にできる力とできない力



出典：中山芳一『家庭、学校、職場で生かせる！非認知能力を伸ばすコツ』東京書籍（2020）



授業で大切にしたい

5つのCの視点

Challenge

チャレンジ・挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

Communication

コミュニケーション・意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

Collaboration

コラボレーション・協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考え方を持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

Creativity

クリエイティビティ・創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイデアを表現します。また、アイデアを相手と共有することで、より深まりのあるアイデアを創り出します。

Critical thinking

クリティカルシンキング・思考判断

物事を多面的な視点でとらえながら、調べた内容や相手の意見等の情報を正しく判断するために、その理由や事実と矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

げる経験をさせる。

- ◆**クリエイティビティ**を育む：絵や工作、音楽、物語づくりなど、自由に表現できる時間を用意する。アイデアを尊重し、失敗を恐れず挑戦することを認める。
- ◆**クリティカルシンキング**を促す：ニュースやテレビの内容、日常の物事について「なぜそうなるのかな」「他にどんな方法があるかな」と問いかけてみる。

学校と家庭、そして地域が一体となって、枚方市が掲げる5Cの視点と非認知能力を育む教育を進めていきたいと考えています。子どもたちが「知識や技能」を身につけるだけでなく、「**学びに向かう力**」「**人間性**」「**思考力・判断力・表現力**」といった力をバランスよく育てていくことが、未来を生き抜くうえでの土台になると信じています。

保護者の皆さまにも、日々の関わりの中で5Cを意識していただければ幸いです。一緒に子どもたちの“**幸せに生きる力**”を育てていきましょう。

学校ブログ⇒
絶賛更新中

